

5月



のんびりてくてく

お散歩してみませんか



5月号

2026年4月30日発行

発行者:(一財)古河市地域振興公社

古河公方公園(古河総合公園)

〒306-0041茨城県古河市鴻巣399-1

☎0280-47-1129

*てくてく情報はHPからもダウンロードできます♪

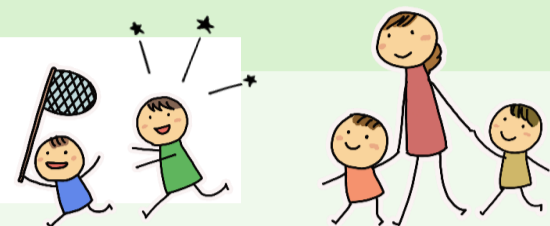
皐月 | さつき

早月(さつき)とも言う。稲作の時期を表し、田植えを意味する「早苗月(さなえづき)」が略されたもの。

てくてく情報



1 枯れてまた再生していく、竹林の循環



120年に一度と言われている「花」が咲いています☆彡

竹はイネ科の仲間で、ふだんは花を咲かせず地下茎で増え続け、ある時期が来ると広い範囲の竹が同時に花を咲かせ、その後そろって枯れてしまうという独特のサイクルを持っています。その中でハチクはモウソウチクやマダケと並ぶ日本の代表的な竹のひとつで、成長すると直径3~10cm、高さ15m程になり、タケノコはえぐみが少なくとてもおいしいと言われています。茶筌(抹茶をたてる道具)の材料にも使われるなど、昔から私たちの暮らしに寄り添ってきました。ハチクの花はおよそ120年に一度しか咲かせないと言われており、ジェテリテリア西隣の池を挟んであるハチクの竹林には今その花が咲き、静かに枯れ始めています。竹林の中で、ひっそりと咲く小さな花はとても地味ですが、その裏には長い時間を生き抜いてきた植物の営みがあります。もし散歩の途中で見かけたら、ちょっと立ち止まって120年という時の長さに思いを馳せてみてくださいね♪

竹林のサイクル

1. 数十年~百年以上、地下茎(クローン)で増え続ける
 2. 同じクローンの竹林が一斉に開花
 3. イネのような穂をつけ、大量の種を実らせる
 4. 種が落ちると、竹林全体が一気に枯れる
 5. 落ちた種が発芽し、数年~数十年かけて竹林が再生
- 「一回繁殖性」という竹の生態で、竹が持つ自然の循環の節目に見られるとても珍しい現象です。一斉開花した竹林の枯れ方は、目の前で数週間うちに青々とした竹林全体が茶色くなるという衝撃的な光景です。



花



①ハチクの竹林



穂

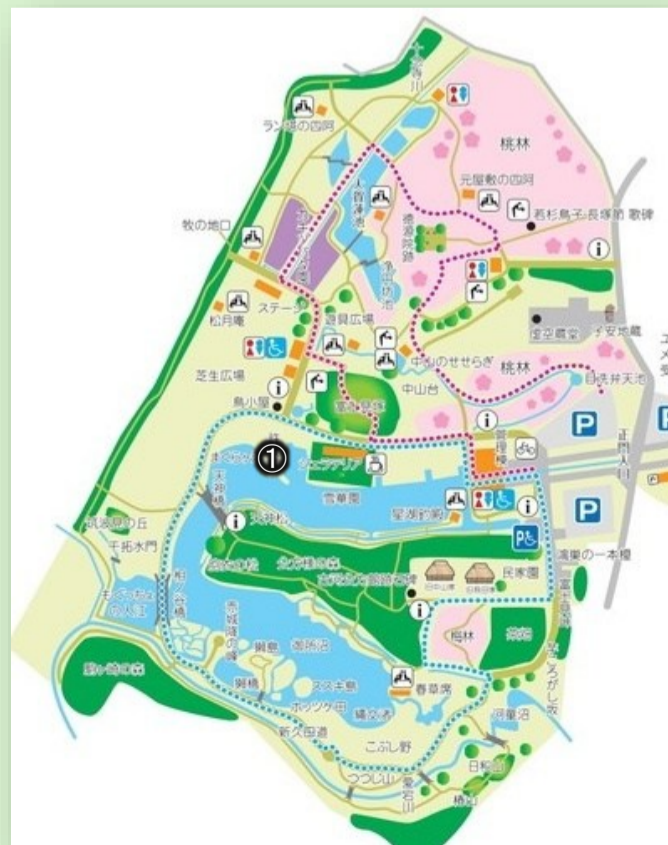
Instagramアカウント



Xアカウント



園内マップ



2 今月の鳥一カルガモ



カルガモが卵をあたためています。そっと見守ってね♪

お母さんがモは1日に1個ずつ、8~12個ほどの卵を産みます。すぐには温めず、すべての卵を産み終えてから温め始めます。こうすることで、卵が同じスピードで育ち、ヒナが一斉に孵るようになります。もし最初の卵から温めてしまうと、先に生まれたヒナが歩き回り、まだ孵っていない卵を守るのが難しくなります。そのため、カルガモは「同時に孵す」という方法を選んでいきます。抱卵が始まってから孵化までは約3~4週間。

生まれたヒナたちはすぐに歩けるため、お母さんと一緒に水辺へ向かいます。あのかわいい行列には、こんな工夫が隠されているのですね。もし巣を見つけても、そっとしておいてください。元気なヒナたちが生まれる日を、みんなで楽しみに待ちましょう。



卵を温めるカルガモ